

平成 21 年 5 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18520098
 研究課題名（和文）大正期の民間楽団に関する資料研究——楽員とレパートリーを中心に
 研究課題名（英文）A Documentary Study on Private Orchestras in Taisho Period: Their Members and Repertories.
 研究代表者 武石 みどり
 東京音楽大学・音楽学部・准教授
 研究者番号 70192630

研究成果の概要：本研究は、大正期の民間楽団の演奏実態を現存資料によって明らかにしようとするものである。新資料を入手・検討した結果、明治期に紹介されたクラシック系楽曲をベースとして、大正期には船の楽団によってもたらされたマーチやサロン風楽曲が大量にレパートリーに加わり、昭和初期にジャンルが分化していく傾向がつかめた。演奏者は、東洋音楽学校卒業生・三越少年音楽隊等、民間で音楽を教授された者が主体であった。(194字)

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	700,000	0	700,000
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,900,000	360,000	2,260,000

研究分野：音楽学

科研費の分科・細目：哲学 美学・美術史

キーワード：洋楽受容 民間楽団 大正期 ジャズ

1. 研究開始当初の背景

大正 15 年に日本初の本格的なオーケストラ、日本交響楽協会（現NHK交響楽団）が設立される直前の時期、大正後期には、民間にさまざまな楽団が存在し、種々の楽曲を演奏していた。こうした大正期の民間楽団について、当時の新聞・雑誌記事や各機関に残さ

れた演奏記録資料を基にした個別の研究が 2000 年代に入ってから開始されている。しかしこれらの研究の中では、船の楽団や劇場・映画館・ダンスホールの楽団（例えば日本交響楽協会の中核メンバーとなったハタノ・オーケストラ）についてはまったく触れられていない。また、主に演奏記録の確認に注目が

寄せられ、一次資料の探索・発見や関係人物の人間関係、あるいは楽譜事情の追究にまで至っている研究はほとんどない状況である。本研究は、こうした動向の中でこれまで手付かずの分野の基礎資料研究を行い、大正期の民間演奏団体の活動についてより明確な概観を得ようとするものである。

2. 研究の目的

大正15年の日本交響楽協会（現NHK交響楽団）始動に向けて、民間で見られたさまざまな楽団の演奏活動のうち、本研究では特にこれまでほとんど研究の進んでいない東京オーケストラ団、北太平洋定期航路の船の楽団、ハタノ・オーケストラ、映画館（金春館・武蔵野館・東洋キネマ等）、劇場（帝国劇場・浅草オペラ）、ダンスホール（帝国ホテル・花月園）等の楽団を取り上げ、その活動内容を明らかにするものである。その際、特に以下の三点に重点を置く。

- (1) 当該団体に所属していた演奏者の来歴とその後の活動をj確認する。中核となっていた複数の人物を特定し、彼らが多様な音楽集団の間を移動することにより、一見ばらばらに見える種々の民間演奏団体の間にもある程度の共通基盤があったことを明らかにしたい。
- (2) 実際の演奏に用いた楽譜・楽器、および演奏批評に関する資料を探索・精査し、楽曲レパートリーや演奏形態についての実態を明らかにする。昭和初期に入ると、個々の演奏団体はクラシック専門の新交響楽団やジャズ・バンドのように、それぞれの専門性を特徴としていくことになる。しかし、大正期に船の楽団を通してアメリカから入ってきた種々の音楽（サロン・ミュージックやジャズ等）は、映画館やダンスホール等のさまざまな場にはまずは無作為に取り入れられ次第に淘汰

されたと思われる。どのような音楽がどこで演奏され、どのように受け入れられたのかを明らかにする。

- (3) 当時の音楽教育機関（東京音楽学校・東洋音楽学校・三越少年音楽隊）と民間の音楽活動との関係について考察する。音楽学校の役割について明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 基礎資料の収集

東洋音楽学校の関係者を中心に演奏活動に関わる新聞・雑誌記事を収集するとともに、東京芸術大学の小山作之助プログラム・コレクション、台東区立下町風俗資料館の篠原正雄資料、北斗市郷土資料館の上田仁資料の調査を行う。全国に在住する関係者の遺族に問い合わせ、現存する当時の楽譜や記録類の調査を行い、船の楽団の演奏記録とハタノ・オーケストラのレパートリー記録、および所持楽譜記録を調査する。船の楽団のメンバーについて、アメリカの国立公文書館およびAncestry.comサイトの乗船記録を調査する。

(2) 演奏記録のデータベース化と分析

東洋音楽学校関係（東京オーケストラ団）、春洋丸（大正14年）、ハタノ・オーケストラ（大正8年～昭和2年）の演奏記録をデータベース化し、その相違点について考察する。

(3) 楽譜の復元と演奏

上記記録を基にWorldCat（全世界の図書館所蔵資料データベース）及び世界の古書データベースを用いて、演奏曲目の楽譜（コピー）を入手する。船員の遺品として遺された、実際に船で用いた五重奏の楽譜の特徴にならって、いくつかの曲については五重奏用の編曲を作成し、再現演奏を試みる。

(4) 研究会の組織

三越少年音楽隊等、初期の民間演奏団体の複数の研究者と情報ネットワークを構築する。

4. 研究成果

(1) 演奏レパートリー

東洋音楽学校と初期卒業生、演奏記録についての記述を著書『音楽教育の礎 鈴木米次郎と東洋音楽学校』に掲載した。

船の楽団、ハタノ・オーケストラ、三越少年音楽隊の演奏曲目と演奏曲順を比較した結果、前2者の間には多くの共通点があることが判明した。すなわち、船の楽団とハタノ・オーケストラのレパートリーは、現在我々がクラシックと分類する楽曲、ブラスバンド用楽曲（スーザのマーチ等）、および日本旋律の編曲ものを約半数とすると、残りの半数は通俗的な旋律であり、これらが楽士の上陸とともに日本国内にも大量に流入したことがうかがわれる。その中で当時繰り返し演奏された楽曲は、当時のSPレコードにも録音されて、日本のクラシック受容、あるいはジャズ受容の端緒となったという点で重要である。これに対して、三越少年音楽隊のレパートリーは船の楽団がもたらした新曲と音楽学校等で演奏される楽曲の両方を含み、当時の新傾向と定番曲との両方を演奏していることが判明した。

このように、大正期にはジャンル混淆状態での演奏が続き、クラシック、ポピュラー、ジャズ等の音楽ジャンルの枝分かれは昭和期に入ってから進んだものと推測される。今回充分調査できなかった活動写真館・劇場・ダンスホールの演奏レパートリーのデータを加えることにより、今後この推測を跡付けしていきたい。

(2) 再現演奏

演奏者の遺族のもとに遺された楽譜資料は数少ないため、演奏記録とレパートリー・ノートに基づいて、当時演奏された約500曲の曲目のうち約100曲の楽譜(コピーを含む)

を入手した。その楽器編成は、当時の船上楽団やハタノ・オーケストラの編成ではなく、ピアノ・ソロ、ピアノ伴奏つき声楽、小オーケストラ用等、さまざまである。このうち、

スーザ「星条旗よ永遠なれ」

レイナード「薔薇の伝説」

ポピー「スフィンクス」

長唄「舌出し三番叟」

マクベス「ラブ・イン・アイドルネス」

ノーマン「水の妖精」

の6曲については、船上演奏の五重奏編成による楽譜を推測再現し、演奏した。また、奥山貞吉作曲「金春マーチ」を原編成(12重奏)で再現演奏した。(2007年5月;2009年5月)

この復元演奏により、当時の船の楽団およびハタノ・オーケストラの編成が独自のものであったこと、クラシックとしての響き(ヴァイオリン、チェロ、ピアノ)に、軽音楽・バンド的な響き(クラリネット、トランペット)を加えた船の楽団の編成が、多様なジャンルに対応するためのものであったことが明らかになった。

(3) 当時の演奏者の動向

卒業後に音楽の教員となる資格が取れなかった東洋音楽学校や三越少年音楽隊出身者は、船の楽士として自活の道を探る中で、期せずしてアメリカの新しい音楽に触れ、上陸後はそれを日本で紹介する役割を果たした。ハタノ・オーケストラや船の楽士のメンバー編成をたどると、当時は数種類の楽器が奏せて当たり前であったこと、乗船メンバーにはある程度の規則性(固定メンバー)が見られ、その中で楽長として指導的な役割を果たした人物を確認することができる。また彼らが陸に上がった時、その人的ネットワークがある程度維持されて活動写真館・劇場・ダンスホールにおける演奏活動が行われた。今後は上陸後の演奏者の動向を精査し、昭和初

期にかけてクラシック、ポピュラー、ジャズへと人々の好みが多分化すると並行して、演奏者がどのような方向に分かれていったのかを詳細に追跡することが課題である。

(4) 研究ネットワーク

明治・大正期の演奏会組織の研究者1名、三越少年音楽隊の研究者1名、初期ジャズ史の研究者2名、横浜花園（ダンスホール）の研究者1名、および日本郵船歴史博物館と情報交換し、研究面で協力し合える関係を構築することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ① 武石みどり 「ハタノ・オーケストラの実態と功績」『お茶の水音楽論集』特別号、363-373、2006、査読無し
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110006607106>

[図書] (計1件)

- ① 武石みどり (監修) 『音楽教育の礎 鈴木米次郎と東洋音楽学校』東京：春秋社、2007

[その他] (計1件)

- ① 講演
レクチャーコンサート『よみがえる船上のハーモニー 船の楽団再現コンサート』日本郵船歴史博物館 2009年5月23日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

武石 みどり (TAKEISHI MIDORI)
東京音楽大学・音楽学部・准教授
研究者番号：70192630

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし